

都市地域における農業生産の事例

<「小泉農園」(神奈川県川崎市)>

神奈川県川崎市の「小泉農園」では、周辺の宅地化が進むなか、親子三代で、地域住民との交流（いちご狩りや小学校総合学習の場の提供等）を図りながら、露地野菜、いちご、ハーブの生産を実施。

経営概況：露地野菜60a、いちご550坪（ハウス）、ハーブ5aと育苗ハウス120坪

【販売戦略、工夫した点等】

- ・露地野菜では生産仲間（向丘農産物流通組合）と地元スーパーへ出荷。
- ・いちご生産では高設栽培により、腰をかがめる露地栽培より作業が楽。また、高齢者等による車椅子によるいちごのもぎとりが可能（福祉園芸）。
- ・ハーブ生産では、ハーブ加工品（ハーブビネガー、ハーブソルト）を生協組合員と共同開発し、生協・インターネットで販売。
- ・地域のバイオマス資源（団地の落ち葉等）による堆肥の活用や農薬使用をおさえた生産の実施。
- ・隣接の小学校の「総合的な学習の時間」を活用し、農業体験学習の取組を実施。
- ・交通の便が良いことから農業大学の卒業者から団塊の世代の退職者まで就農準備の方を研修生として受入。



共同直売所外観



高齢者の車椅子による
いちごのもぎとり



小学校の「総合的な学習の
時間」による農業体験学習